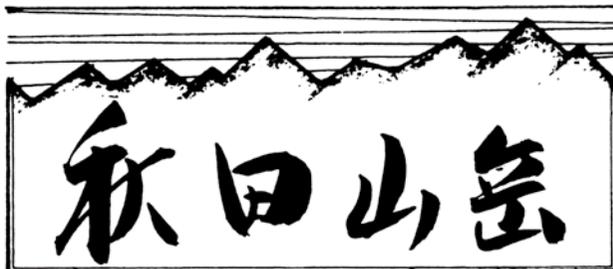


2022



令和4年7月 発行

No. 123

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市土崎港北
5-3-40 鎌田方

TEL・018-846-8150

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

山岳古道調査

新緑の白木峠 三浦昭男

【白木峠の概要】

岩手県西和賀町と秋田県横手市を結ぶ生活道として重要な路線で、標高六〇二mの峠越えは急峻で牛馬さえ困難であった。現在は国道一〇七号が整備され、登山やハイキング道になっている。

【山行の実施】

春の山行は、古道調査を兼ねて「白木峠」とし、西和賀町の越中畑御番所跡から白木峠まで(約2.7km)の往復とした。実施にあたってはコロナ感染対策に留意し、現地集合・解散で行うことにした。

令和四年五月二十一日(土)、天気は曇、参加者十八名白木峠の起点・越中畑御番所跡に集合する。

【①越中畑御番所跡】

ここで鎌田副支部長から、「今回の白木峠は岩手県側で、昨年実施した秋田県側と繋がることになる。山行を楽しんで下さい。」との挨拶があった。

【②牛泊まり】

準備を整え十時に出発。峠道入口からはナラやクルミの林で平坦な道が続く。小さな沢を横断すると、急に道幅が狭くなり、曲がりくねった坂道になる。少し進むと、道が掘割状の坂道になる。

【③ふきどり地蔵尊】

登ってゆくと視界が開けた平場に出る。「牛泊まり」の看板があり、昔の峠越えの際に休憩地として利用された所である。

「ふきどり地蔵尊」は吹雪に命を奪われること。なだらかな林の中を、鶯のさえずりを聞きながら進む。道の両側の椿の花が多くなり、この辺りが「雪椿の群生地」と思われる。

椿の中を進むと、右手の鬱蒼とした杉の木立の中に「ふきどり地蔵」が行んでいる。経年劣化で一部破損し、刻まれた字の読めない所あり。

【④林道】

山道を少し進むと、前方左側の視界が開け、明るくなってくる。道から数メートル下には一面の湿地帯が連なり「水芭蕉の群生地」となっている。最盛期は終えているが、未だ花を咲かせている株もある。

湿地帯を過ぎる辺り、右側に林越しに大きな杉の木が見えてきた。「一本杉」と言われる。幹回り、枝ぶり、威風堂々の巨木である。

さらに林の中を進むと林道に出る。

【⑤白木峠】

これからは、最終区間の登り、日陰の道にはまだ雪が消えず残っていた。北側が急斜面の尾根筋に出てすぐ薄暗い杉林に入っていく。杉林を抜けると、そこは白木峠・頂上である(十二時着)。

見晴らしは良好、北東から南西の山々が眺望出来る素晴らしい。

【下山】

記念写真撮影後、十三時下山開始。復路は、足の運びも軽く、全員無事に峠道入口に到着し、(十四時三十分)現地解散となった。

参加者 佐々木民秀 柳田勇悦
鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
佐藤博 柴田勸 佐藤英實

三浦昭男 小松芳美

会員外 八名



⑤白木峠



③ふきどり地蔵尊

1794年冬、秋田県六郷の人がふきどり(吹雪で遭難死)したその供養のためのお地藏様



②牛泊り

昔、牛で荷物を運んでいたが、この牛の隊商の休憩地



①越中畑番所跡

藩政時代に置かれた南部藩の関所(1686年~1869年)

白木峠山行に参加して 佐藤英實

五月二十一日(土)、支部山行白木峠を楽しんだ。登山口少し手前にある「越中畑番所跡」に集合し、鎌田副支部長の挨拶後、古道担当の三浦委員から今日の行動予定の説明後、十時に出発。

お天気に恵まれ、芽吹きから葉を広げて間もない淡い緑がいつぱいの中、爽やかな風も程よく流れ、二カ所ほど倒木が歩道を塞いでいたが、整備が行き届いている山道を進む。ピッピー、シューシュー、ホーホケキョと小鳥たちが惜しげもなく、心地よい鳴き声を披露してくれる。春先の鶯の鳴き声は、随分ぎこちないものだが、今はすっかり上達して賑やかに歌声をサービスしてくれる。

ありがたいことに山道脇のそこここに、沢山の花々が迎えてくれる。最初に現れたのが「ユキツバキ」であった。雪も所々に残る涼しさのせいかな、鮮やかな赤い花を沢山つけて、登山口から頂上まで所々に咲いていた。

次に現れたのがスミレ、そして、カタクリ、キクザキイチゲ、エイレンソウやイカリソウ、たった一株だけのシノウジョウバカマは半分ほど開いた蕾を一輪だけつけ、丈は三十cmほどだが、ほかの種々

を見下ろして凜と屹立していた。登り始めて二十分程で、荷を背負い、峠を越える牛を休ませたとされる「牛泊り」に着く。さらに二十分ほど進むと右手に「ふきどり地蔵尊」が祀られていた。

中腹を少し過ぎると右手に大杉が立っていた。樹齢は不詳。真っ直ぐに伸びた幹の途中から逞しい枝を何本も伸ばし、堂々と聳えていた。五人の会員が両手を広げてやつと抱えられる太さであった。

少し進むと広々とした「ミズバシヨウの群生地」が現れる。まだ大きく開いた白い花が点々と見える。降りて観察する人もいた。

途中で西和賀山岳ガイド等の四人と出会う。親しく挨拶を交わし、相互の山岳会の活動を讃えあった。やや急な登りとなり、杉林の中を進み、芝生広場に出ると、白木峠の標柱のある山頂であった。

焼石岳、東鳥海山、高松岳等、が見渡せる絶好のロケーションであった。

十三時下山開始。ワラビ、ゼンマイ、タケノコ等、山菜取りに勤しむ人、花々の写真を撮る人、無事に下山。楽しい一日であった。



雪椿群生地



ミズバシヨウの群生地

新入会員紹介

富山靖 (六十五才)

会員番号 No.一六九四八

居住地 仙北市田沢湖生保内

入会 令和四年五月

紹介者 高橋吉一 鈴木裕子

訂正のお願いとお詫び

会報百二十二号二頁上段記載の新役員名簿に「歩仁内昌樹」を加える。校正ミスをお詫びします。

秋田街道・仙岩峠踏査山行 畠山 靖

①仙岩峠の概要

仙岩峠は、秋田県の仙北郡と岩手県の岩手郡を結ぶ道路として、明治時代に大久保利通が命名したという。ただし、この峠の歴史は古く、江戸時代以前の平安時代のころから通行があったのではとの由来があり、江戸時代には、久保田藩と南部藩との交通路として栄えていた。

明治時代から現代にかけては、幾度となく峠道路改良の変遷を経て、昭和51年にバイパスとしての仙岩道路が開通し、現在に至っている。

②古道調査実施

五月二十八日（土）、秋田支部と岩手支部が、雫石町橋場の番所跡から仙北市田沢湖生保内に至る仙岩峠の古道調査を合同で実施した。

③坂本川上流から古道へ

「道の駅雫石あねっこ」から調査開始地点である坂本川の上流3.8km地点へは、岩手支部の方から送迎いただき、東北電力の羽中線76番と77番鉄塔への登り口が調査のスタート地点となった。

古道は、東北電力の羽中線や秋盛線の鉄塔の間を縫うように進

み、鉄塔の番号が歩行の目安となつて、現在地を確認するうえで大変参考になった。

④従是西南秋田領

ここは、秋田領と南部領との国境石碑で、元和元年（1615年）から寛文7年（1667年）まで、50年余り続いた秋田藩と南部藩との国境紛争が解決した際の石碑で、「従是西南秋田領」と刻み込まれている。なお、これより北西2km先の国見峠には、「従是北東盛岡領」と刻まれた石碑があり、国境の標が当時を今に伝えている。

⑤助小屋跡地

お助け小屋は、かつて、この街道を通る方々の休憩所や避難小屋として利用されていた。また、生保内から雫石、雫石から生保内への荷物の引き渡し場所の中継点としての役割も担っていたようである。無人の小屋に荷物だけが行なわれていたことに驚くとともに、日本人が根底に持っている良心が息づいているのかもしれない。

⑥ヒヤ潟

ヒヤ潟は、昔、沼のほとりに住

んでいた武士の父と娘が、里から機織機（はたおりき）を譲り受けたが、横糸を通すときに使う道具の梭（ひ）が無かった。

娘が沼の底から梭の形をした木を見つけ、機織りに使っていたが、ある日、立派な若者が現れ、娘の梭を奪い去り、それを追った娘が沼に飛び込んで、それっきり姿が見えなくなった。それ以来、梭や梭にする木を持つて通っただけで、沼が荒れたことから梭嫌（ひいやがた）と言われ、それがなまってヒヤ潟と呼ばれるようになったという伝説が残っている。

⑦旧仙岩道路

ヒヤ潟から現在の「仙岩峠の茶屋」までは、昭和38年に開通した旧仙岩道路を下山したが、昭和51年に現在の仙岩道路が開通したことにより、今は閉鎖され、車の通行はできなくなっている。

数十年間、使用されていないことから、落石やコンクリート壁が剥離して落下した箇所が至るところに散見され、廃道後の荒廃を目の当たりにしながらの歩行となった。

⑧峠を隔てた交流の輪へ

今回、秋田支部と岩手支部が合同調査を実施したことにより、参加した会員同士が、会話やおしゃべりをしながら、語らいに花を咲

かせたことは、交流を深めたいと願う両支部の関係者も大変喜んでいと思います。

両支部の会員からは、この秋にも国見峠の調査を合同で実施しようとの声も連なり、峠という山稜を隔てながらも、交流の礎が大きな輪へと広がっていく、確かな気配を感じ取ることができた山行でした。

参加者 今野昌雄 鎌田倫夫

歩仁内昌樹 三浦昭男

高橋吉一 鈴木加代子

畠山靖 会員外一名

サポート 佐藤和志 田口善信

鈴木裕子

岩手支部 阿部支部長外

十八名



④従是西南秋田領



⑥ヒヤ瀉付近



⑤助小屋跡地



③旧秋田街道入口



⑦旧仙岩道路

※事前調査

・五月五日(木)

旧峠の茶屋から旧46号線經由ヒヤ瀉から国見峠、江戸時代の秋田街道を旧峠の茶屋

参加者

高橋吉一 畠山靖
会員外一名

・五月二十一日(土)

旧峠の茶屋から旧46号線經由ヒヤ瀉から国見峠までの往復

参加者

田口善信 高橋吉一
鈴木加代子 畠山靖
南八幡平山岳会 四名

山岳古道調査

オンライン会議報告

三浦 昭 男

山岳古道調査 zoom 会議が、令和四年五月十八日、二十時三十分から行われた。

進行は本部永田理事。「全国百二十ヶ所の古道を最終決定するため、

全国支部の意見を聴取している、今後の擦り合わせや調整を行い決めていくので、よろしくお願いする。」との挨拶により始まった。

【最初に本部から報告】

⑨羽州街道・矢立峠(枝道矢島街道)については、青森支部は調査ができないとのこと、外すことにした。羽州街道としては、秋田支部は、行わないとの意見も承知している。

【秋田支部が報告】

⑩秋田街道・国見峠については、五月末に岩手支部と合同現地調査を行うことにしている。秋田県側の古道は通行困難なため旧国道四十六号を通ることになっている。

⑫沢内街道・白木峠については、昨年に秋田県側を踏査した。本年は今週末に岩手県側を踏査する。

⑬仙北街道は、岩手支部にお願いしている。秋田県側を踏査する時は、協力をする。

本部からは、調査に当たって、文献や資料等の整備をお願いすることもあると思うとのこと。

⑭鳥海山古道については、広範囲なことから、秋田支部としての調査は困難としてきたが、佐藤助雄委員から、「古道の現地調査及び調査に関する資料や文献はあり、対応する。滝沢口についての資料もある。吹浦口、蕨岡口については山形県なので出来ないことを理解

いただきたい。」

本部からは、「本部が、佐藤委員や矢島山岳会と秋田支部の皆さんと連携し、調査を進めて行きたいので協力をお願いする」とのこと。

⑨羽州街道の枝道、矢島街道も、佐藤助雄委員から「推薦案も作っており、資料もある、調査することに問題は無い。」との意見あり。本部からは、「矢立峠と矢島街道は取り下げで考えていた。本部での検討課題とさせてもらいたい。」とのことで保留となった。以上、オンライン会議は、二十一時終了。

出席者

近藤雅幸 永田弘太郎
松本博子

秋田支部 佐藤助雄 歩仁内昌樹

三浦昭男 高橋吉一 鈴木裕子
※文中〇の番号は会報「山」四月号に掲載の調査対象古道No.

※全国山岳古道調査

日本山岳会百二十周年記念事業
調査期間は令和三、令和七年度
全国で百二十の古道を調査予定

会務報告

○事務局会議

・五月五日 午後一時、矢島郷土資料館で開催

・鳥海山古道調査について説明。

出席者 佐藤和志 佐藤助雄

鎌田倫夫 鈴木裕子